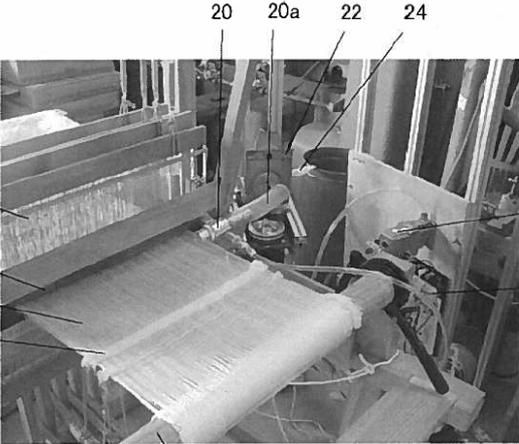
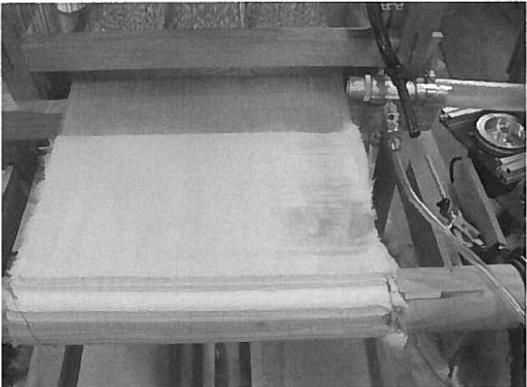


【大学シーズ情報】 ※印の項目は必須項目ですので、ご記載ください。

◇本事業では、大学の「知財」「技術シーズ」全般を取り扱います。

大学名 信州大学

<p>※研究タイトル</p>	<p>高起毛織物の製造方法</p>
<p>※研究者の所属学部 学科、役職、氏名</p>	<p>繊維学部 創造工学系 助教 坂口 明男</p>
<p>技術のポイント</p>	<p>緯糸の代わりに繊維を直接織り込むことで、従来とは手触りの異なる新しい起毛織物を製造する方法を提供する。</p>
<p>現在の研究開発段階</p>	<p>A 基礎研究段階 ・ B 試作段階 ・ C 実用化段階</p>
<p>※技術の紹介</p>	<p>本技術では、繊維を緯糸の代わりに杼口に織り前に挿入することにより、繊維を糸に加工せずに織り込んで新規な織物を製造する。繊維集合体という考え方では経緯に組む点で織物であるが、緯糸に”より”がない点で不織布に近い。つまり不織布と織物の両者の利点を併せ持った全く新しい特性をもった二次元的繊維集合体を提供することが可能になる。</p> <p>【図 1】</p>  <p>【図 3】</p> 

大学名 信州大学

<p>研究の背景</p>	<p>従来は、糸を紡いでこれを経緯に組み込むことで織物を製造されてきた一方で、繊維から直接二次元的繊維集合体を製造することも試みられており、例えば、フェルトや不織布はそうした技術の成果である。不織布は各種方法の中でもっとも生産効率が高いにも関わらず、衣服の主材料としての利用は少なく、当該分野においては、織物や編み物が市場を圧倒的に支配しているのが現状である。</p>
<p>従来技術より優れている点</p>	<p>一般的に衣服に用いる織物の原料糸に関して、“より”が少ないほど着心地が良いとされているところ、本技術が提供する新規な織物は、緯糸の“より”が全くないため、着心地において、これまでにない性能を発揮できる。また本技術では、従来技術では紡績が困難とされている極細繊維やナノファイバー、紡織工程で発生する落ち綿や絹糸紡績ブーレットなどを資源化することが可能となる。</p>
<p>※技術の用途イメージ</p>	<p>新規繊維製品、衣料品</p>
<p>中小企業への期待</p>	
<p>知財情報 (注) 特許番号がありましたら記載ください</p>	<p>特開 2012-87446</p>